

田んぼはいろいろな生き物の住処



皆さんは、田んぼにどんな生き物がいるか知っていますか？カエルやトンボ、それから時々大きな白い鳥も見かけますね。

生き物の助けを借りてお米ができる

田んぼにはこの他にもいろいろな生き物がいます。なかには、イネを食べたり、イネを病気にするウイルスを運んだりする害虫もいます。以前は、今よりも虫を殺す力の強い農薬を使って害虫を退治していました。そうした農薬はとても役に立ちましたが、害虫だけがものすごく増えてしま



い、大きな被害が出ることもありました。その原因を調べると、強い農薬は害虫を食べてくれる生き物まで殺してしまい、かえって害虫が増えることがわかりました。

つまり、いろいろな生き物がいることで害虫だけが増えないような仕組みになっていったのです。今では、農薬の種類を変えるなど害虫だけがが増えてしまわないような方法でお米は作られています。

お米作りが生き物を守る

田んぼにいたる生き物は、田んぼの周りにあるあぜやため池、水路なども、えさを取ったり卵を産んだりするために使っています。もともと、ため池や水路は田んぼでお米を作るために人が管理しているのですが、田んぼの生き物にとっても大切な場所となっています。つまり、お米を作る人間の活動が生き物を守っているのです。



2010年10月、名古屋市の「国連地球生きもの会議」(COP10)があり、「みんなが生き物を大切にするにはどうしたらよいか」が話し合われました。生き物を大切にするには様々な方法がありますが、田んぼがいろいろな生き物の住処となっていることを覚えておくのも、その一つです。